

会報 安曇野教育

第76号

発行所 安曇野市教育会
発行人 松下 玲
編集 会報委員会

発行日 令和5年 7月 14日
題字 川田 殖

「創造的に仲間と楽しく学び続けていく」

会長



去る5月13日の教育会総集会には、大勢の会員の皆様にご出席いただき、盛会のうちに終えることができました。ありがとうございました。コロナの状況を鑑みまして、開会の音楽、全体での歌、地域の皆様のご出席を控えていただいた開催でしたが、4年ぶりに参集して行えたことを大変うれしく思います。会員発表では、昨年度公募によるメンバーで発足した青年教師委員会の委員長、学校 先生から「教育会に吹く若い風 青年教師委員会の活動から」と、若い先生方の教育会に寄せる熱い思いを話していただきました。講演会では、“世界最高齢のプログラマー”として知られているNPO法人ブロードバン

ドスクール理事の若宮正子先生に、「～人生にもう遅いはない～ 私は創造的でありたい」と題してご講演をいただきました。人生100年時代を豊かに生きるための提言「創造する力を持つ・学び続ける・楽しみをみつける・仲間の輪を広げる」は、教育会の活性化に通じるものがあると思えました。

6月24日に、社会科資料集編集委員会の企画・運営により「安曇野巡検」が行われました。参加された先生方が「何回か参加しているが、その度に新たな発見がある。」「他校の先生方と話ができてよかった。」「教材研究として、『拾ヶ堰』に焦点をあてた巡検があってもいいのでは。」と話されたのを聞き、若宮先生の4つの提言を思い出すととともに、会員が互いに心を合わせて、教育精神を高め、会員の職能向上に努め、教職員全体の職能向上に寄与し、教育の刷新と充実をはかり、郷土の教育を進展することという教育会の理念を再認識させていただきました。

先輩の先生方が築いてこられた「安曇野に根ざした教育」を土台に、めまぐるしく変化し続ける予測不能な時代を生きていく子どもたちの力を育むために、自ら求め研究・修養し、人と人がつながり合い、学び合うことで未来へつないでいける教育会をつくっていきましょう。

「安曇野の先人等に学ぶ会」

学校

第67回を迎えた今年度も、内容を精選しての実施となりました。6月8日に幹事で岡村千馬太先生墓所と碑周辺の除草・清掃を行い、6月17日に教育会代表6名で墓参及び碑前祭を実施しました。

墓参および碑前祭は、梅雨晴れの素晴らしい天気の中、滞りなく行われました。三郷中萱にある墓所では歡喜寺のご住職に読経をあげていただき、献花、焼香を行いました。城山公園の碑前祭では、拝礼の後、献花、献酒、写真撮影を行いました。その後、南安曇教育文化会館に戻り、務台理作碑・木村素衛碑に拝礼し、写真撮影を行いました。

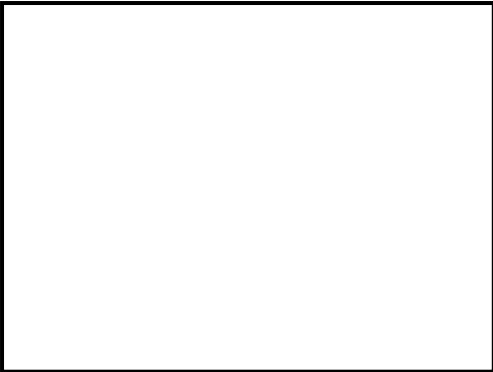
先人の墓所や碑の前に立ち、岡村千馬太先生の「教育者は人格者でなければならない。人格者に触れることによってお互いの人格の向上が図れる。天下第一の人格者を招き、その人格に触れることによって、教師自身はまず優れた人格者たらん。」の言葉を思い出し、気持ちを新たにしました。

◆ 初任者歓迎研修会 ◆

学校

5月30日、安曇野市教育会・信濃教育会共催による『初任者歓迎研修会』が開催されました。市内小中学校に赴任した初任者が一堂に会し、教育会の意味を知るとともに、先輩会員の経験談を聞く機会を持ち、今後の教育活動に期待や希望を持てることを願って毎年開催されています。





開会行事の前に、郷土文化財センターと視聴覚協会の見学を行いました。「長野県の教育に尽力された先生方の教育愛に触れることができた」「歴代の先生方が残したものを拝見し、教師の志を違う物差しで考えることができた」と、参加者から感想をいただきました。

その後、安曇野市教育委員会より 教育指導員から挨拶と、信濃教育会より 教育研究部長から信濃教育会の概要説明をしていただきました。先輩会員からは、先生（ 学校）、先生（ 学校）から発表をしていただきました。「先輩の話に勇気づけられた」「頑張っている

子を褒めることに関しては、次の日から意識している」「同じ悩みを抱えている先輩の話はありがたかった」と、年齢の近い先輩からの話は、心に響くものがあったようです。

今年度は、茶話会を行いました。初任者、主催者等が4～5人のグループに分かれ、お茶を飲みながら歓談しました。ずっと緊張していた初任の先生方でしたが、この時間は笑顔が見え、笑い声もたくさん聞こえてきました。「横のつながりのいい機会になった」「年齢を超えたつながりができた気がした」「先輩の先生や同年代の先生方と親睦を深めることができてよかった」「初めて他校の初任者の方々と会うことができ、同じ仲間がいるんだと心強い気持ちになった」といった感想が寄せられました。

次年度以降も教育会として少しでも初任者の支えとなるよう、より充実した初任者歓迎研修会を目指して参ります。

令和5年度 実技講習会紹介

7月25日（火）【哲学のみ】、28日（金）に以下の内容で実技講習会が行われます。夏休み前半の半日が、先生方の知的好奇心を刺激する時間になることを期待しています。

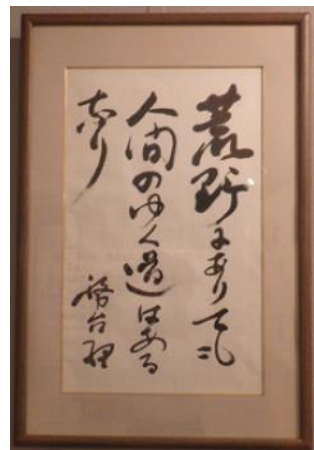
講 座 内 容			
国語	■ 書を学ぼう・書こう・楽しもう！ ～大澤逸山先生に学ぶ書写指導 2023 夏～	道徳	■ 道徳のプロフェッショナルから学ぶ！ ～道徳の授業作り 2023 夏～
社会	■ 安曇野の企業見学	哲学	■ 哲学研修講座 コロナ禍を経て、再び安曇野で木村素衛を読む ～「表現愛」の思想は今を生きる教師に何を語るか～
算数 数学	■ 数学的に考える資質・能力を伸ばす授業作り ■ 明日の授業に使いたくなる！ SGRAPAで『テータの活用』	教育 相談	■ ポジティブな行動支援 ■ 教育相談の開始時期 ～マイナーメジャー～
理科	■ 今後の授業に活かそう！魅力的な理科教材紹介	人物 誌	■ 安曇野市文書館（堀金）～臼井吉見文学館～
音楽	■ 民族楽器を楽しもう！ 音楽でのICTの活用法を学ぼう！	英語	■ 異文化理解を深めよう！
美術	■ ステンダグラスのペンダント作り ■ レザーのバッグインバッグ作り	情報 教育	■ Chromebook・ロイロノートを授業に活かそう
保健 体育	■ 明日からの授業に生かそう！ 実技伝達講習	学校 保健	■ 繊維のダイヤモンド『穂高天蚕糸』で糸かけアート
技術	■ Chromebookによる中学校技術・家庭科 ～情報とコンピュータ対応講座 双方向性プログラム～	特別 支援 教育	■ 「WISC-IV」の検査結果を日頃の支援に生かそう！
家庭 科	■ アップサイクル ～穴あきウールを和製ダーニングしよう～	生活 総合	■ マイ箸を作ろう

【郷土の文化財 5 3】

務台理作 「荒野にありても人間のゆく道はあるなり」

務台理作(1890～1974)は三郷野沢出身の哲学者です。「荒野を進む道はとぎされて困難を極めることは確かだが、人間その難苦を耐え忍んでいけばすばらしい道が開けていくものである」というこの書は、苦しいときに支えとなってくれる言葉ではないでしょうか。務台は「個を大事にし、真理と平和を希求する人」をこれからの人間育成の核とすべきと強く主張しました。務台の時代も令和の時代も変わらないものがあることを感じさせてくれます。

(郷土文化財センター運営委員会 学校)



安曇野巡検

学校

6月24日(土)の午前中、梅雨の時期にも関わらず天候に恵まれ安曇野巡検が開催されました。講師に安曇野文書館の 先生をお迎えし、19名の参加者で長峰山、安曇野市でいちごを栽培している農家、本村「円」を中心とする安曇野市の交通インフラ、堰の水量を調節している安曇野排水路を見学しました。

長峰山では、北アルプス一望とはいきませんでした。安曇野市を一望しながらこの平の成り立ち、扇状地の地形や湧き水、明科地域の歴史について解説をしていただきました。パラグライダーの離陸台からの眺めは素晴らしいものでした。

いちご栽培農家の見学では、穂高でいちご農家を営む さんより、安曇野市で広く栽培されている夏秋いちごについてのお話をお聴きしました。この季節に食べられているショートケーキの上ののっている大きないちごは夏秋いちごで、安曇野市のケーキ屋さんで売られているものの多くは地場産品であることを知りました。粒が大きく真っ赤で美味しそうないちごが栽培されていて驚かされました。

安曇野市の交通インフラの見学では、南豊科の駅周辺の踏切の様子や日本では余り見受けられないラウンドアバウト(本村円)の構造などを見学しました。講師の 先生より「身近な交通インフラを安全指導や社会科の教材としてどう位置付けるか」といった視点で解説していただきました。ラウンドアバウト中央の丸い黄色の部分には大型車が曲がるためのスペースのようです。

安曇野排水路では、拾ヶ堰の水量を調整するための排水路を見学しました。この排水路が出来上がる前は堰の氾濫等が頻繁にあったようです。安曇野市の豊かな農業を支える堰にも先人達の知恵が凝縮していることを知りました。

今回の安曇野巡検では、交通安全や防災といった新しい視点からの見学も取り入れられました。普段何気なく過ごしている安曇野市も多角的な視点で見つめることで新たな発見がありました。講師の 先生をはじめ、準備をして

いただいた委員の先生方、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

教育会総集会報告

学校

5月13日(土)に安曇野市教育会総集会を豊科公民館大ホールにて開催いたしました。コロナ禍を経て4年ぶりに参集で行いましたが、音楽同好会の発表及び安曇野市歌「水と緑と光の郷」、「信濃国」の全員合唱を見合わせる実施となりました。

また、公益社団法人として地域の一般の方々にも公開してきましたが、今年度は一般の方々への公開も見合わせました。従って、会員発表と講演会に例年以上に焦点を絞っての開催となりました。

会員発表は、「教育会に吹く若い風」と題して、昨年度発足した青年教師委員会の活動を委員長の 先生(学校)が発表してくださいました。

この委員会は、若い先生方の発想で、安曇野市教育会に新しい風を吹き込んでもらおうという趣旨で発足したものです。昨年度、信濃教育会の 会長をお招きして懇談した際の様子を報告していただきました。今年度、新たな方向での企画を推進していただいている点も含めて今後の活動に期待できる発表でした。



講演会は、若宮正子先生（NPO法人ブロードバンドスクール理事）をお招きし、「～人生に『もう遅い』はない～わたしは創造的でありたい」との演題でご講演いただきました。

若宮先生は、昭和10年のお生まれで、三菱銀行（現・三菱UFJ銀行）に定年まで勤務され、58歳からパソコンを独学で習得されたそうです。その他にも、80歳を過ぎてからプログラミングをはじめ、ゲームアプリ「hinadan」を公開されたり、数々の政府主催会議（岸田首相主催・デジタル田園都市国家構想実現会議、デジタル庁デジタル社会構想会議、総務省デジタル活用支援アドバイザーボード）の構成員をお務めになったり、国連社会開発委員会や国連人口基金のイベントでご講演されたり、台湾政府デジタル担当の政務委員（IT担当大臣）オードリータンさんとトークショーを行ったりと、多岐に渡ってご活躍されています。これらの経験について様々なエピソードを交えてお話しいただきました。また、若宮先生はエクセルアートの創始者でもあり、当日着用されていたお洋服は、ご自分でデザインしたものだと言っていました。若宮先生の「電気計算機やコンピュータがわたしを助けてくれた。」「自分の未来にフタをしちゃいけないと思います。」といった言葉や、新しい技術を積極的に取り入れ、前向きに人生を送っておられるお話が印象に残りました。凛とした佇まいでご講演いただき、明日への活力や元気をいただきました。あっという間に時間が過ぎてしまう、そんなご講演だったかと思えます。

総集会の趣旨は、教職員の職能向上に寄与し郷土の教育を進展することです。まさに、総集会は教育会活動の根幹をなす活動だと言えます。このことを踏まえ、今後、開催方法の工夫を含めて内容の充実を図り、開催内容を周知することで、より多くの会員や地域の皆さんの期待に応えるものにしていこうと考えています。

令和5年度 安曇野市教育会 同好会

17の同好会が発足しました。学校や学年の枠を越えた、先生方のつながりを大切にした学びの場となるよう取り組んでいきます。

(*会員数は5月28日現在)

同好会名	会長（学校名）	幹事長（学校名）	会員数
国語			18
社会			24
算数・数学			19
理科			25
音楽			23
図工・美術			12
体育			30
技術・家庭			14
道徳			9
哲学			48
教育相談			24
人物誌			3
英語			13
情報教育			12
学校保健			21
特別支援教育			19
生活・総合研究会			11

※同好会員は随時募集しています。入会をご希望の方は、各校の代議員にお声がけください。